

行政視察(令和2年実施分)

委員会名	視察年月日	視察先	視察目的
文教委員会	2. 10. 8	熊本県熊本市(オンライン視察)	熊本市立小・中学校へのICT機器導入の目的及び導入後の成果と課題について

文教委員会 委員会視察報告

令和2年10月28日
委員長 土屋 美恵子

視察行程 令和2年10月8日
熊本県熊本市（オンライン視察）
熊本市立小・中学校へのICT機器導入の目的及び導入後の成果と課題について

視察者 委員長 土屋美恵子
副委員長 山本ひとみ
委員 堀内まさし、大野あつ子、本間まさよ、川名ゆうじ

文教委員会（令和2年10月8日）

日時 令和2年10月8日 午前10時から正午まで

視察先 熊本県熊本市

テーマ 熊本市立小・中学校へのICT機器導入の目的及び導入後の成果と課題について

目的 武蔵野市議会は、市立小・中学校の児童生徒に1人1台の学習用端末（ICT機器）と通信環境を整備する補正予算を可決し、令和3年度から実施することになった。そのために、市立小・中学校の児童生徒がICT機器をすでに使用している熊本市から導入の目的、実際に使用しての成果や課題などを伺い武蔵野市でも参考にする。

内容

1、ICT整備で変わる熊本市の学び（熊本市が目指す学び）について

- ・新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実
学びに向かう力・人間性等のかんよう
- ・熊本地震からの復興に向けた、100年後の未来への礎作り

ICTなりAIなりの力を借りて、いろいろな人の力を借りて自分がやりたいことを実現していく

2、熊本市のICT環境整備について

- ・2018年9月より熊本市立の全小・中学校へiPadや電子黒板の整備を開始
iPad23,460台、3クラスに1クラス分、先生に1人1台、特別支援学級1人1台
- ・タブレット端末導入時期 2018年9月～小学校16校、中学校8校に先行導入
2019年4月～小学校76校に導入、2020年4月～中学校34校に導入、5年の業務委託
- ・大型提示装置 電子黒板2,400台を設置、実物投影装置約2,400台を設置、6年リース
- ・2021年1月末まで子どもの分のiPad残り4万台を整備、1人1台へ
子どもたちの学びの道具タブレット端末は毎日持ち帰りが基本、通信費を含め保護者の負担はなく学習用の利用として同意書を各家庭よりもらう。フィルタリング以外の制限はつけない。
- ・タブレットはレンタルで端末活用支援、運用、保守研修支援等業務委託。タブレット端末等の不具合、紛失、盗難が生じた場合は速やかに交換してくれる。LTE通信の提供、通信量は総額定量制で7ギガ6万台シェア。1台あたりに割り戻すと月2,500円
- ・教員のICT環境
タブレット端末 学習用として自由に使えるiPadを持ち帰り自由、制限なしで貸与、校務支援システム等が使えるノート型パソコンも貸与されている。今後モバイル化検討とのことである。オンライン利用により出張の削減、研修機会の確保につながっている。Microsoft Teamsによる情報共有、ファイルの共有により時間の有効活用、在宅勤務可能。教材、授業、イメージの共有により多忙化の解消になっている。

3、教員を支援する研修、支援体制、ICT支援員について



- ・ICT支援員は、業務委託による雇用で1人当たりの担当は6.4校7時間勤務
トラブル対応業務から授業支援をメインに教員の不安解消対応、アプリの開発業務となっている。
- ・導入研修(教員)研修時間180分、対象校数76校、研修チーム3グループで、構成メンバーは、iPad研修講師1名、ロイロノート講師1名、MetaMoji講師1名、指導主事1名、通信環境サポーター2名(導入校すべてに研修実施済み)
- ・管理職研修 2018年12月6日・10日約200人、2019年12月13日・19日約220人
- ・情報化推進チームの編成や指導主事等による訪問研修は電話1本でも対応し2020年1学期延べ118回、夏季休業中15回開催された。所長、副所長もすべての学校を訪問して意識の変革。
- ・オンラインによる研修4～9月15回、ズームを使って実施18時～19時、学校家庭からでも参加、内容は授業支援アプリ、ロイロノート、MetaMojiの活用法、プログラミング、ズームの活用法等
講師 指導主事、自主研、学生、企業の協力
*産学官連携 毎月開催の会議、教育委員会の力だけでは学校改革ICTはできないさまざまなノウハウや経験を持った「地域の力」が必要である

4、学校休校中の取り組みについて

- ・子どもたちの学びを止めないために取り組んだことは、web公開情報・学習サイトの作成・オンライン授業のモデルテレビ番組作成。民放4局NHKテレビ番組での学習支援

5、成果と課題 これからの未来に向けて

授業に対する子供の意欲は段違いで、発表したいという子供が増えている。課題解決に向けた情報の収集・共有の方法を学ぶツールとして本当に便利で子どもたちが問題を解いていく過程が見える。また考えをまとめ発表するツールとして有効である。

先生方の変化としては、積極的にいろいろなことに挑戦し手法をまねし、取り組むことにより教師間のつながりを持ち情報・体験の共有が大切なことに気付くことができた。

反面新しいことに対する抵抗と、タブレットに対する認識の違いや従来型指導へのこだわりがある教師と意識の差がある。

学校や教師間における課題は、学校間の差や管理職の意識の差、核となる職員の有無、ICT支援員の不足が挙げられる。

成果(参考になった点)、課題等

本市の小・中学校学習用コンピューター導入が2021年4月。どのように準備し進めていくのか、子どもたち・教師への負担等危惧するところが多かったが、具体的な説明を受けイメージができた。道具としていつでも使える体制と管理職、教員の意識改革の下に進むものだと痛感した。未曾有のコロナ禍により生活様式も問われている。世界の教育環境との比較も含め新時代を生きていく子どもたちの教育環境を真摯に考えていきたい。初のオンライン視察であり議会事務局にはシステムはじめ準備に大変ご苦勞をおかけしたうえでの視察と感謝しております。事前に32項目の質問をさせていただき、含めての説明になりオンライン視察の有効につながりました。